

生きている白山に学ぶ水と緑と防災

白山砂防通信



SABOは
世界の共通語

2007 冬号
VOL.15



土石流でひしゃげた分教場の半鐘



半鐘側面の文字部分

写真は白山市白峰地区の上流を流れる牛首川（手取川）の右岸側に存在した集落「河内谷（こうちだに）」の分教場（本校から遠く離れた地域に住む児童・生徒のために、本校とは別に設ける学校 現在の分校）の半鐘です。

この半鐘は、昭和9年（1934年）7月11日、手取川大水害の際に発生した土石流で河内谷から現在の白峰集落附近までの約3 kmを流され、奇跡的に川底に埋まらずにあったところを白峰在住の織田ハルさんに拾われたものです。その後、今日までの73年間を地元の八坂神社境内で大切に保管されていました。本来円形だった底面はひしゃげて楕円型になり、あちこちが石にぶつかってでこぼこに歪んでいる半鐘は、百万貫の岩と共に土石流災害のすさまじさを今に伝える貴重な

資料となっています。

半鐘は戦前の学校で主に授業の合図に打たれた物で、高さ約40cm、直径約25cm、重さは10.5kgあり、青銅でできています。側面には「白峯小学校 五十周年記念 風嵐河内谷 分教場同窓生」の文字がわずかに読み取れ、河内谷の分教場の本校である白峰小学校は明治6年（1873年）に開校したことから、分教場を卒業した人達が大正12年（1923年）にかつての学舎に贈ったものであることがわかっています。

『河内谷分教場半鐘』は平成20年春より白山砂防科学館で展示することを予定しています。





平成19年度 白山砂防 女性特派員

夏から秋にかけて、地元白山とお隣岐阜県の神通川水系砂防の砂防事業を実際に見学し、砂防に対する認識を深めました。9月には昨年度は中止になった手取川の源流域調査が実施され、厳しい残暑のなか12名の特派員が白山を登山、特派員同士の結束も固まりました。



流域対策課浅井課長からの甚之助谷第1号集水井の解説

白山砂防(尾添川・牛首川)現場見学 (7月30日)

初めて砂防堰堤まで降りて、工事現場を見るのは驚きと発見であった。細かい魚の通り道を残したり、景観を損なわない配慮も為されており、河原の丸石を乗せて自然と一体化させて工事をされている事を知り、感心しました。自然相手でなかなか進まない工事をコツコツされておられ、そういう努力のおかげで河川が守られているのだなあと、再認識しました。

甚之助谷地すべり防止施設(排水トンネル)を見せて貰い、水抜きの大切さや水の量の多さに驚いた。過去の白山登山の時、尾根より砂防堰堤をチラリと見る程度で、なんの興味も無かったが、この活動を通じて災害のニュースや砂防堰堤を注意して見るようになった。白山について少し知識が増えてより関心を持って登山をしたいと思う。(荒川特派員)



蛇谷下流水と緑の溪流整備工



選奨土木遺産の甚之助谷砂防堰堤群



鋼製立体格子型の白谷第2号堰堤

神通川水系砂防現場見学 (8月28日)

烈しい雷雨の中を出発。現地で少しずつ晴れて淡い夕陽の中、山路を抜けると稔り豊かな田園風景が広がった。

地獄平砂防堰堤、TVのロケーション地になったとか、色々の角度から、自然との調和、住民への気配り、ネーミングの云われも又心温まる話だった。白山砂防の尾添川の工事も今年は暗渠方式になっていたのを思い出した。

左俣谷ダム、さすが北アルプス壮大すぎて工事も大々的。関係者の皆様に大声で「ご苦労様」と叫べば山彦がかえってくるのは必定凄い。

中尾防災センター、奥飛騨さぼう塾を見学後、しのぶ砂防堰堤を見学。管理用通路等、各々の立地条件、土地の性格を見極め、時代の要求など考慮に入れて流石、砂防王国。白谷第2号砂防堰堤(鋼製立体格子堰堤)ではこの形状に知恵を出しあっただろうと感動。どれも厳しい事業だが夢を持ってこの仕事が好きであれば苦労が喜びになり誇りとなっている事でしょう。

街に帰り、この平穏が目に見えぬ所で守られている事実を私は家族や友に語る砂防の言葉を探しています。特派員応募は自分勝手な理由でしたので、砂防事業の重さを知った今、砂防情報の言葉探しは貴重な課題となりました。

(上口特派員)



曲線のデザインが美しい地獄平砂防堰堤



魚道や遊歩道が整備されているしのぶ砂防堰堤



観光新道から望む別当谷砂防堰堤群

手取川源流域調査（9月21日～22日）

台風で延期された手取川源流域調査は快晴に恵まれ、幸運を喜びつつ出発したものの、あまりの気温の高さに急な観光新道では全くピッチがあがらず、体調不良を訴える特派員も出て先が心配された。殿ヶ池避難小屋に着いたのは昼も過ぎ、私は何とか先発隊に着いていきたかったが、途中で姿が見えなくなった。私は何度も白山に来ているのでお天気もよく不安はなかった。弥陀ヶ原の木道も歩きやすくナナカマドが一部紅葉し秋の気配を感じさせていた。南竜分岐からの水平道も木の橋が新しく山荘前まで歩きやすく整備されていた。近年の大雨で崩れた柳谷のえぐられた崩壊場所が目についた。3時半頃早々に山荘に到着した。心配した他の特派員も無事で夕食時には全員揃った。



南竜道にある昭和初期の空石積みの土留工

翌朝は展望台で美しいお日の出を全員で見ることができ良かった。下山時には山荘から砂防新道の分岐までの間に大正時代に造られた白山砂防事業のスタート地点の石積み堰堤を見学。100年経っても機能しているとの事に驚かされ、先人の苦勞が忍ばれた。砂防新道の途中で今年から実施している地すべり「地質調査現場」を見学。大きな予算を投じているので、良い？結果を期待したい。また、昨年大雨で危険箇所ができた砂防新道の一部も迂回路が出来て歩きやすくなっていて。登山道を整備して石や木で階段状にするのは、歩きやす



甚之助谷地すべりの地質調査作業現場

くするばかりでなく、山肌を安定させる効果があると説明があった。

11時半には無事下山。反省点としては、慣れない登山グループの場合は特に早い出発が大切だと思った。（川上特派員）

百万貫の岩まつり参加（10月13日）

第13回百万貫の岩まつりに参加させていただきありがとうございました。私は3回目の参加でした。展望台の足場はしっかりと作ってありましたが、登るときは足元が網目なので恐かった気がします。天候には恵まれ、ステージの内容等は良かったと思いますが、参加人数が少ないのが残念でした。今回白峰の総湯前で同時開催されたにぎわい特産市は、百万貫の岩まつり特設会場内で一緒に行ったらどうでしょうか？ それと特設会場内の案内と説明が入り口にあって来た方が来て下さった方が解りやすいと思います。何回か聞かれましたので！

私は岩転がしゲームと〇×クイズを担当させていただきました。イベントは子供さん対象のものが多く、婦人が楽しめる物として特産市などがあつたらと思います。〇×クイズは易しい問題から始めた方が楽しめるのではないのでしょうか？ ちょっと最初から難しかったかな？（加藤特派員）



特派員司会による砂防〇×クイズ



会場の様子



土石流の模型実験コーナー



◆ 百万貫の岩まつり2007 開催 ◆

平成 19 年 10 月 13 日土曜日、白山市白峰において第 13 回目を数える百万貫の岩まつりが開催されました。百万貫の岩は昭和 9 年(1934 年)の 7 月 11 日に発生した大水害の際に流れ出た大岩で石川県の天然記念物に指定されており、まつりの日には一日だけ岩に特設展望台が組み、実際に登ってその高さを体験できます。イベントでは溪流釣りや白峰まんぷくテントのほか、土石流体感 3D シアターや土石流模型実験、白山砂防女性特派員による昭和九年白峰村水害誌の朗読、災害救助犬のデモンストレーションなど災害や防災に関する催しがありました。

また今回は百万貫の岩まつり参加者を対象に「白山を守る砂防堰堤見学バスツアー」も実施されました。ツアー参加者は秋晴れのよ



昭和9年の大水害時に発生した別当大崩れを見学

く澄んだ空気の中、一般車は通行できない白山の砂防工事用道路を通り 3 年前に土石流が発生した別当谷と昭和初期に施工され今なおその役割を果たしている甚之助谷砂防堰堤群や甚之助谷地すべり防止工などを見学しました。ツアーには予想を上回る参加希望者があり、参加できなかった皆様には大変ご迷惑をおかけしました。



平成16年(2004年)発生した別当谷土石流で流出した鉄骨の展示



災害救助犬のデモンストレーション

◆ 白山市公民館砂防現地研修のご案内 ◆



白山砂防科学館



別当出合での解説

NPO法人(特定非営利活動法人)白山麓地域安全ネットワークでは、白山市内の校下公民館を対象に白山砂防の現地研修のサポートをしております。

私達の住んでいる白山麓は、市町村合併により誕生した白山市のうち市域の 80% を占め、人口は逆に 20% 程度と極端な過疎地域となっています。こうした山間地域では土石流を始め洪水や崖崩れ、豪雪など自然災害の多発地帯でもあるため災害情報をできるだけ早く地域住民に周知することが必要です。

事業着手以来まもなく一世紀を迎える白山砂防の現状を市民の皆さんに知っていただこうと白山砂防の現場をご案内し、全国でもごくまれな高地での地すべり対策工事の大切さや厳しさを実感し、ご理解いただく活動を進めています。

研修の主催は各公民館で計画をしていただき、私たちはサポーターとして現場での説明の依頼やバスの手配、砂防科学館を始め現場までのご案内をいたしております。白山砂防科学館では館長による説明や模型実演を見学し、その後日頃一般の方は立ち入ることのできない甚之助谷や別当谷の砂防現場で、大正時代から施工され続けてきた先人の知恵の結晶である砂防堰堤、最先端技術の無人化施工や排水トンネルの見学、平成 16 年及び 18 年と 2 度にわたり別当谷で発生した大規模な土石流や山腹崩壊に対する砂防施設の効果など詳しい説明が行われます。

微力な私達ですが、こうした活動を通じて中下流域の皆さんに砂防事業の大切さを訴えていきたいと考えています。

平成20年度研修のお問い合わせ先

NPO法人白山麓地域安全ネットワーク

TEL 090-2128-3268

Eメール npo-hakusan-net@dance.ocn.ne.jp

◆ 編集後記 ◆

今号は第 1 面に石川県指定天然記念物の「百万貫の岩」と並ぶ昭和 9 年の手取川大水害の記念物である「河内谷分教場の半鐘」を取り上げ、第 2・3 面には特派員自身の筆による白山砂防女性特派員の活動状況を掲載しました。なお「砂防質問箱」と「白山・手取川と生きる」は休載させていただきます。

また第 4 面では NPO 法人による白山市内の公民館を支援する砂防現場研修会の取り組みについてご紹介しました。来年度も実施を予定しておりますので、是非公民館行事の一環としてお役立て下さい。

◆ 編集・発行 ◆

白山砂防科学館

毎週木曜日休館 入館無料

920-2501 石川県白山市白峰ツ40-1

TEL 0761-98-2990 FAX 0761-98-2991

Eメール hakusan-j@po3.nsknet.or.jp

※平成20年3月1日より電話番号が以下に変更になります。

TEL 076-259-2990 FAX 076-259-2991